

NCS

Nature Conservation
Society of Hokkaido

HOKKAIDO

2004年7月 NO.122

..... CONTENTS

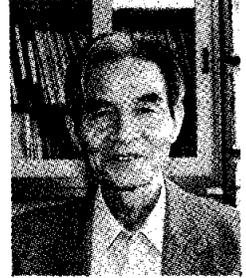
チヨットひとこと.....俵 浩三.....2	あ・ら・か・る・と.....10
新会長の挨拶.....佐藤 謙.....3	寄贈図書・お知らせ
2004年度通常総会の概要.....4	活動日誌・要望書.....11
エッセイ.....大久保フヨ.....7	お知らせコーナー.....12
北海道各地のニュース.....8	



成体に変態できないまま、冬を過ごしたサンショウウオの幼生 稗田一俊撮影

この十年を振り返って

私は1994（平成6）年の総会で会長に選出され、今年の総会まで5期10年にわたり、微力を尽くしてきました。小暮得雄前会長が北大から千葉大へ移られたので、短期のピンチヒッターのつもりでお引け受けしたのですが、いつのまにか10年もたってしまいました。



1990年代前半の北海道の自然保護問題は、大雪山・士幌高原道路、千歳川放水路、夕張岳スキー場、リゾート・ゴルフ場の乱開発など、大きな問題が山積しており、どれひとつとっても難航が予想されました。中でも士幌高原道路と千歳川放水路は「始まったら止まらない公共事業」といわれる時代で、かたくなな開発行政を相手にするので、強固な壁にぶつかるような心境でした。しかし会員の皆様のご協力、ご支援、他の自然保護団体や市民団体との連携、マスコミの好意的報道などにより、反対世論が大きく広がりました。士幌高原道路は「ナキウサギ裁判」にまで発展しました。

そうした中、1995～96年には北海道庁での「から出張」「官官接待」など不正経理が発覚したので、道政の信頼回復のための改革が必要となり、97年に士幌高原道路を目玉とする「時のアセス」が生まれたのです。それは全国的な評判となり、国の公共事業再評価制度の創設にも波及しました。千歳川放水路も見直されることになり、士幌高原道路ともども99年に中止されたのです。時のアセスを契機に行政の情報公開、説明責任も前進しました。財政事情の悪化も、公共事業見直しを後押ししています。

98～99年には日高横断道路も再評価されましたが「事業継続」となったので、2000年以降、日高横断道路反対運動に力を入れました。行政への質問を繰り返して道路計画の問題点を鮮明にし、行政を追い詰めました。「止めよう日高横断道路」全国連絡会も結成されました。そうした情勢の中で、03年には知事が「凍結」、開発局長が「中止」を表明し、84年に着工された日高横断道路は、未完成のまま中止され、日本一の原始境・日高山脈の心臓部は守られたのです。これからは国立公園昇格も課題でしょう。

80年代に起こった知床森林伐採問題は、森林生態系保護地域という新制度を生み、その指定第一号の知床は、いま世界自然遺産の候補地としてクローズアップされています。また夕張岳は、スキー場計画が断念され、天然記念物指定が実現しました。

この10年は、自然保護運動が行政を動かし、公共事業が中止されたり自然保護が充実される時代への転換期だった、といえます。会員を始めとする多くの方々のご支援、ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

北海道の自然保護問題には、大規模林道、各地のダム計画、身近な自然の保全など、まだ課題が山積していますが、佐藤謙新会長のもと、北海道自然保護協会がいっそう発展されることを、心からお祈りいたします。

（理事・札幌市在住）

俵
たわら

浩
ひろ

三
み

会員の皆様へ

会長 佐藤 謙



今回の総会において当協会の会長に選出されましたので、この場をお借りして、ご挨拶を述べさせていただきます。

元々、植物生態学が専門である私は、植物とその環境を観ることによって、一理事の立場から協会活動に参加してきましたが、これからは、それに「まとめ役」が加わることになりました。いま、その重責を感じさせられておりますが、まことに微力ながら、北海道の自然を良い状態に保つことを大きな目的として、協会の自然保護活動に力を注ぎたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

多様な自然をそれぞれ良い状態で保護するには多様な対策が考えられ、様々な意見が生じます。また、最近では、持続的利用、自然との調和、自然の再生など、一見すると、自然保護を考えたかのようにみえる、自然の過度の利用計画あるいは破壊計画が多くなり、問題点が見えにくくなってきたと思います。そのため、理事の方々や会員の皆様と良く話し合い、それぞれの問題を多面的に検討し、理事会・協会の方向性を決めていきたいと思っております。北海道自然保護協会は今年が40周年を迎えるとのこと、多くの先達が築き上げてきた協会活動をさらに発展させるべく、理事の方々、会員の皆様と一致協力した活動を展開したいと考えております。

すでに総会で承認されましたように、今年度の活動計画・具体的に取り組む問題（調査研究事業）として、開発道路、大規模林道、ダム計画、自然再生事業、知床世界遺産、環境教育、身近な自然のあり方など、多数があげられております。大規模林道に関しては、すでに「北海道大規模林道ネットワーク」が設けられましたので、道内の各団体と協同して大きな運動を展開しようと考えています。協会活動は、広報事業や普及事業を含み、多岐にわたりますので、理事会では理事の役割分担を決めつつも一致協力した体制を用意しております。会員の皆様には、これらの活動計画それぞれについて、または上記以外の自然破壊問題に関して、常に、良きアドバイスと情報提供をいただきたいと願っております。

自然環境に対する道民の意識が強まった時代の成果として、この10年間に、士幌高原道路、千歳川放水路、そして日高横断道路と、著しい自然破壊が危惧される大型公共事業がストップしました。しかしながら、例えば、日高横断道路と同様な「開発道路」のうち、数十年間工事がなかった路線が突然に着工され、日高分の予算が回ったとしか考えようがない状況があります。まさに「もぐらたたき」に似た状況ですが、不必要で税金の無駄遣い、何よりも自然破壊が明らかな、従来型の大型公共事業もなかなか減らない現状があります。今年度は、前年度の理事会において、とくに大型林道とダム問題（平取ダムなど）に重点を置こうと決められておりますので、これらの問題を中心に協会活動を進めていきます。

「会員や理事の皆さんとともに、あるいは会員外の方々とともに、種々の異なる能力を持ち寄って力を合わせ、一つ一つ問題を解決していくこと」、それだけを考えております。

以上、漠とした挨拶になりましたが、会員の皆様には、何よりも、絶大なご協力を切にお願い申し上げます。
(札幌市在住)

2004年度通常総会の概要

日時 2004年5月15日(土)
午後1時30分～3時20分
場所 道民活動センター(かでの2・7)
(札幌市中央区北2西7)

会員総数941名(過半数471名)のうち、会場出席の会員は55名、委任状は464名、合計519名となり、定款上の定足数を満たしているため総会が成立した。

俵会長の挨拶

北海道自然保護協会の総会に出席して頂いた、お礼を申し上げます。総会は、一年間にわたる活動の評価とこれからの活動計画を審議して頂くとともに、今回は理事と監事の改選が行われる年です。北海道を巡る自然保護の状況は、身近な小さな問題から大きな環境問題まで様々ですが、すべて協会で取り組める訳ではありませんので、背丈にあった活動をしてきました。昨年は、日高横断道路が完全中止になり、大きな成果がありました。しかし、北海道の大きな問題として、人知れず山奥で大きな林道が建設されている「大規模林道」の問題とか、各地で行われている無駄な公共事業、特にダムの建設問題が挙げられますので、それらに活動の重点を移していきたい。また、自然保護活動を進めるため、裾野を広げる活動もしていきたいと考えております。

第1号議案 2003年度事業報告および収支決算報告・監査報告

- 2003年度事業報告について
俵会長から議案書に基づき説明があった。
- 2003年度収支決算について
島山副会長から議案書に基づき説明があった。
- 2003年度監査報告について
大西監事から会計処理、事業などが適正に行われている旨が報告された。

◆第1号議案の承認について議長から提案があり、会場の拍手をもって異議なく承認された。

第2号議案 2004年度事業計画および収支予算

- 2004年度事業計画について、俵会長から議案書に基づき提案があった。
- 2004年度収支予算について、島山副会長から議案書に基づき提案があった。

◆第2号議案議案の承認について議長から提案があり、会場の拍手をもって異議なく承認された。

第3号議案 理事選挙の件

根岸選挙管理委員長から、今回の理事選挙は定数20名に対して19名の立候補があり、信任投票になった経過が説明された後、開票結果が発表され、19名全員が信任された事が報告された。

◆理事19名の信任が会場の拍手をもって承認された。

第4号議案 監事選任の件

監事の選任について、俵会長より大西会員、

◇議案1：2003年度収支決算

決算報告(2003年4月1日から2004年3月31日まで)

一般会計

(円)

収入の部		支出の部	
勘定科目	03年度決算額	勘定科目	03年度決算額
(基本財産運用収入)	(0)	(管理費)	(3,558,202)
基本財産利息収入	0	賃金	1,250,000
(引当預金運用収入)	(0)	諸謝金	49,000
引当預金利息収入	0	退職金	0
(会費収入)	(5,564,500)	福利厚生費	0
個人会費収入	3,389,500	会議費	22,920
団体会費収入	2,175,000	旅費交通費	438,980
(一般事業収入)	(107,475)	通信運搬費	366,923
一般事業収入	107,475	消耗品費	228,355
(補助金収入)	(0)	印刷製本費	15,210
地方公共団体補助金収入	0	燃料費	29,965
(助成金収入)	(0)	光熱水量費	114,712
民間助成金収入	0	賃借料	910,608
(寄付金収入)	(659,000)	諸会費	83,000
寄付金収入	659,000	図書資料費	0
(雑収入)	(284,248)	支払手数料	4,350
受取利息	2,414	租税公課	28,651
雑収入	281,834	雑費	15,528
(繰入金収入)	(0)	(一般事業費)	(1,845,980)
繰入金収入	0	広報事業費	1,819,195
(引当預金取崩収入)	(0)	普及事業費	26,785
退職給与引当預金取崩収入	0	(調査研究等事業費)	(275,387)
(前期繰越収支差額)	(3,208,100)	(引当預金支払)	(0)
		退職給与引当預金支払	0
		(繰入金支出)	(0)
		繰入金支出	0
		(予備費)	(0)
収入合計(A)	9,823,323	支出合計(B)	5,679,569
		次期繰越収支差額	4,143,754
		(A)-(B)	

山本会員に引き続きお願いしたい旨が提案された。

◆監事は大西会員、山本会員となる事が会場の拍手を持って承認された。

〈戸津議長〉

議長より、いったん休憩をとり、その間に、新理事の間で会長、副会長、常務理事を選出するよう提案された。

〈俵会長〉

新理事による理事会において、会長に佐藤謙、副会長に畠山武道、市川守弘、常務理事に伊達佐重、江部靖雄、奥谷浩一、福地郁子、大久保フヨがそれぞれ互選された事が報告された。出席した理事全員が自己紹介を行った。

〈佐藤新会長の挨拶〉

俵会長の続投か、畠山副会長の会長就任を考えていました。今回、思いもよらない結果になりましたが、頑張っていきたいと思います。俵会長は、10年間で素晴らしい成果をあげられ、本来であれば名誉会員になられる方です。しかし、多くの問題を抱えている時、辞められると困る状況です。もう少しの理事続投をお願いしたいと思います。皆さんの力を結集して、頑張っていきたいと思えます。

第5号議案 その他

〈室蘭市：沖田実会員〉

室蘭市は、当初、道内分のPCB処理を行う事になっていたが、環境省の要請があり道および他県15箇所PCB処理を道と一体となって受け入れる事になった。

これは自然保護の視点から大きな問題があるとして、室蘭市に「PCBの安全を考える会」ができ、12月に全道的な問題として取り組もうとした。協会に電話したところ、文章で要請してほしいと言われ、FAXを送信したが、何の返事もなかった。今後の協会の方向として、地方の要請に対して出来る出来ないは別として、必ず回答するように要望します。

〈俵会長〉

この件について、理事会で話題になりましたが、自然保護との兼ね合いが今までとは少し違う所があり、協会として何が出来るか話

し合えなかった。そのため、もう少し勉強させてほしい。

〈市川副会長〉

この問題は、今までの北海道における自然保護問題を見ると、やむを得ない所があるが、自然保護と汚染問題は切り離して議論できない部分があるため、汚染問題にも取り組んで行かなければならないと思う。特に、この10年、東北止まりだったゴミ問題が、北海道まで及んできているので、協会としても取り組んでいきたいと思えます。

〈北見市：表誠司会員〉

配布資料によって、北見バイパスの問題点が報告され、協会に協力依頼があった。工事の概要は、10.3km区間にトンネル5箇所と橋梁8箇所、総工事費約400億円である。活動母体は、「北見の自然風土を考える市民連絡会」であり、5月22日に副会長の畠山先生に講演してもらう予定になっている。

〈俵前会長〉

要請を承りました。

◇議案2：2004年度収支予算

予算計画（2004年4月1日から2005年3月31日まで）

一般会計

(円)

収入の部		支出の部	
勘定科目	予算額	勘定科目	予算額
(基本財産運用収入)	(0)	(管理費)	(3,691,000)
基本財産利息	0	賃金	1,200,000
(引当預金運用収入)	(0)	諸謝金	100,000
引当預金利息	0	退職金	0
(会費収入)	(6,000,000)	福利厚生費	10,000
個人会費	3,600,000	会議費	50,000
団体会費	2,400,000	旅費交通費	500,000
(一般事業収入)	(200,000)	通信運搬費	400,000
一般事業	200,000	消耗品費	200,000
(補助金収入)	(0)	印刷製本費	20,000
地方公共団体補助金	0	燃料費	40,000
(助成金収入)	(0)	光熱水量費	100,000
民間助成金	0	賃借料	900,000
(寄付金収入)	(400,000)	諸会費	86,000
寄付金	400,000	図書資料費	20,000
(雑収入)	(400,000)	支払手数料	10,000
受取利息	3,500	租税公課	30,000
雑収入	396,500	雑費	25,000
(繰入金収入)	(0)	(一般事業費)	(2,300,000)
繰入金	0	広報事業費	2,000,000
(引当預金取崩収入)	(0)	普及事業費	300,000
退職給与引当預金取崩	0	(調査研究等事業費)	(500,000)
		(引当預金支払)	(0)
		退職給与引当預金支払	0
		(繰入金支出)	(0)
		繰入金支出	0
		(予備費)	(509,000)
当期収入合計	7,000,000	当期支出合計	7,000,000
前期繰越収支差額	4,143,754		
収入合計(A)	11,143,754		

〈登別：前田菜穂子会員〉

苫東から支笏湖にかけての石狩西部のヒグマについて、2つの問題があります。一つは、千歳空港拡張の問題であり、この拡張部分に春のヒグマの採食場所がある事です。二つ目は、国道が4車線になり、生息圏が分断される事です。オタルマップ川の河畔林にコリドーを作りたいと思いますが、トラスト運動では用地は高く手が出ません。北海道や環境省に要望書を出していますが、協会にも協力を願いたい。9月18日から9月20日までの3日間、ウトナイ湖でフォーラムを予定しているので参加を願いたい。

〈佐藤会長〉

先ほどの北見バイパスの問題は、地元の大館理事を責任者として、現地調査を含めて対応していきたい。

前田会員からのヒグマの件に関しては、理事の中に哺乳類の専門家がおらず、理事に動物専門家をいれようと何年も前から動いてきたが成果があげられなかった。コリドーの問題は、大きな問題ですが、クリアしなければならぬ事が多いと思いますので、専門的知識を持つ会員に教えてもらいながら取り組みたい。

〈札幌：原島和子会員〉

宗谷岬ウィンドファーム計画に関して、各方面に手紙を出して、活動応援を行っています。鳥類保護団体が工事に反対している中、この4月に着工されました。私達はこれから宗谷岬を利用する鳥たちに対して何ができるのかと思い、質問しました。

〈大館理事〉

宗谷ウィンドファーム計画に関しては、3月に事業者、稚内市、環境省の3者に計画の見直しの要請書を提出し、事業者と稚内市から返事がありました。事業者は、計画の中で自然に配慮して行うので問題はない、稚内市は、ガイドラインに沿って計画されているので問題はないと言う返事でした。

風力発電の問題でやりづらい面の一つは、アセスの義務がない事です。法的な規制のない中で、要望するだけの行為は活動として弱い。クリーンエネルギーとされる風力発電も、それと引き換えに犠牲になるものがあるという事を多くの人に知らせていく必要があると思います。

今年2月に苫前町で見つかったオジロワシの断裂死体は、検死の結果、風力発電のプロペラで切断された可能性が高いとされました。協会としては、北海道や環境省に対して、この結果を受けどのような取組をして行くのか、回答を要求してい

きたいと考えています。

〈森田理事〉

関連して、ワシ類が電線に触れて感電死している事例が増えている。風力発電施設もそうですが、電線についても合わせて考えていきたいと思いません。

〈北見市：表誠司会員〉

北見駅から2kmの北見バイパス予定地にオジロワシの営巣があったが、営巣に失敗していた。測量の影響かもしれません。

〈市川副会長〉

東京圏央道の予定地の「高尾山の自然を守る会」の活動をしている画家の本がありますので、宜しければ買ってください。この運動は、東京を守らなければ北海道も守れない、北海道を守らなければ全国も守れない、と言うつもりで行っていますので、宜しくお願い致します。

〈戸津議長〉

時間も押し迫ってきましたので、この辺で終わらせて頂き、最後に依会長より一言お願い致します。

〈依前会長〉

予定していた時間いっぱいには皆様の熱心な議論を頂き、感謝いたします。私は、10年前の総会で、思いかけず会長になりました。当時、八木先生、小暮先生のピンチヒッターとして引き受けました。1990年代半ばからの10年間と言うものは、環境問題について大きな動きがあり、その時、重要な懸案であったのが千歳川放水路と土幌高原道路の問題でした。一方、道や国などの行政が大きな曲がり角にきている時代にあり、情報公開など、私達の意見を聞くようになってきました。このような状況で、会員の皆様の力や世論の力をお借りして、土幌高原道路は中止、千歳川放水路は治水事業にするが放水路は中止となりました。土幌の運動に伴って「時のアセス」が始まり、事業の再評価がなされ、日高横断道路も昨年見直され、それを中止させる事ができました。

反省すべき点は、会員の数が減少してしまった事です。これからは、若い人に魅力のある協会にする事が大事だと考えています。この10年間、本当にお世話になり、有り難うございました。

◆拍手の渦の中総会は終了した。

童謡は、心のふるさと - 自然が育てる子どもの心 -

理事 大久保フヨ

昨今の子どもが起こす悲しい事件を見るにつけ思うことは、「沈黙の春」の著者であるレイチェル・カーソンの最後のメッセージとされている「センス・オブ・ワンダー」です。

彼女は、「自然は、子どもたちへの一番大切な贈りものを用意してくれます」と言っています。なのに私たち大人は、子どもたちへ一番大切な贈りものを用意してくれる自然を、いためつけ、ないがしろにしてきました。特に1987年のリゾート法ができてからの自然の破壊ぶりは目をおおいます。

私が、自然保護活動を始めたのも、リゾート開発でゴルフ場建設のために豊かな自然が失われていくことに大きな危険を感じたからです。機械の力で森林の樹木があつと言う間に伐採される様を見て、子どもたちの手足をもぎとられる痛みを感じました。私を育ててくれた自然を、そのまま子どもたちに孫たちに残してあげたいという思いが私を自然保護活動に駆りたてたのです。

私は、釧路生まれの釧路育ちです。釧路湿原は私の遊び場、日曜日には友人と遠出。塘路湖でベカンベを採って帰り家でゆでておやつです。それに家の近くに小学校、中学校、高校があり、学校の近くには小川が流れ、アイヌの砦であったお供山そなえがありました。春は、春採湖の近くの山を散策。オオバナノエンレイソウが真白に咲いていたのを思い出します。私たちは、大人たちから「あの花を採るな、採ったら雨が降るからな」と教えられていました。オオバナノエンレイソウと知ったのは、自然保護活動をしてからのこと。それまでは“あめふりぼたん”と教えられていたのです。大人たちに採ったら雨が降ると言われみんなで採らないできた。こうして昔は自然が守られてきたのだなと思います。今は、ちょっとでもめずらしい花があるとすぐ盗っていく人がいます。

先日のことです。私の住んでいる地域に、私が“西の里原始林”と名づけて、花の写真を撮っている、野幌森林公園と地つづきの林があります。朝、散歩に来ていた若い女性三人に、自慢の“西の里原始林”の花を紹介してあげました。彼女らは、「こんな所に、こんな花があるんだ、すごいい…」と感動してみました。次の日、行くとコケイランとその側にあったサイハイランと他の所にあったサイハイランが盗掘されて消えていました。私はショックでした。林にあると来る人みんなが見て感動してくれるのに…と、その日は悲しい思いで過ごしました。

私たちは、童謡にうたわれている風景を体験しているから、歌うとその風景が目に見えてきます。が、今の子どもたちはどうでしょうか、おそらくチンプンカンプンでしょうね。でも童謡の心はなんとか伝えたいものです。春の小川、七つの子、森の小山羊、夕焼け小焼け、めだかの学校、ドングリコロコロ・蛙の笛……。

私は三度の飯より歌が好きでしたから今でも童謡は殆どみんな何も見ずに歌えます。だから、道を歩いていて、カラスがなけば「カラスなぜんくの…」と口ずさみ、犬がワンと吠えれば「ワンワンワン誰の犬…」と自然に歌がでてきます。だから一人でも楽しく過ごせます。

また、私が学んだ学校は真の意味でのゆとり教育だったと思います。音楽の教師は音楽会へ行ってきた時の話しを、国語の教師は、家で読んだ本の話しを、社会の教師は、自分が経験した外国生活の話しをと各々、その時習っているところに関連のある教科書以外の話しをしてくれました。それがまた実に楽しかったのを覚えています。知識を詰め込まれても、その知識が生きる力にならなければほん虚しいです。美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性を子どもたちと共に育てたいものです。そして、それは自然が育ててくれるものなのです。

(北広島市在住)

水辺の話のあれこれ（水たまりを残そう）—— 稗田 一俊

（理事）

出そろった若葉は青みが増し、川は水を減じ、暑い日差しに水が温み、川岸に針のような小さなウグイの子供たちが泳ぐ季節になってしまった。この時期、気になるのが川水の少なさだ。川水が減じた分だけ川原の石は干上がって白くなり、川岸の岩には白い線が残されている。

本来の川だったら、川面にヤナギ・ハンノキ・ミズナラなどが影を落とし、水が流れている川岸まで草木が繁り、川岸の石や木の根元には緑の苔がついて潤いの水辺だったに違いない。今は、川幅が広がり、水が流れているところを草木が生えたところとの間に、天日にサラされて白くなった石が転がる不毛の川原が目立つようになった。干からびた川なのである。それでも、水質は日本一、二を競い合うような清流と認定されてしまう。

「ほんまかいな…。こんなんでどこが清流なんや。」と、一言の二言も口を出したくなる。

こんな川が、道南に限らず、川の上流に治山ダム・砂防ダム・谷止工などのダムがある川の共通する特長である量を知って欲しい。つまり、ダムで砂利の需給バランスが崩され、ダムの下流の砂利が持ち去られる量が多くなるために、どんどん河床が低下し、川岸が崩壊し続けるために、川幅が広がってしまい、荒れた川になってしまうのだ。

2004年8月9日～10日の台風10号で被災した沙流川水系では二風谷ダムの上流の支流で川岸の崩壊が目立ち、2、3倍に広がった場所もある。余談だが、二風谷ダムに大量に流れ込んだ流木の多くは川岸崩壊・山脚崩壊により発生したものと見られ、流れ込んだ流木は二風谷ダムの放流に障害をもたらせた疑いも浮上している。二風谷ダム下流では、二風谷ダム職員の「神業的な操作」があつて回避できたとして職員が表彰されたいが、本当のところは、流木が放流口を塞いだので、下流側の水害を回避できたという「流木の仕業」であり、そうさせたのが実は「神の仕業」なのだとの意見もある。

さて、林道を走ると林道脇の側溝がやたら目立つ。コンクリート側溝、木板側溝、素掘側溝…、どれもが道路の水が走らないようにして道路を守るのが目的の側溝である。これが林道周辺の湿地や水たまりの水抜きとして働き、エゾアカガエルやエゾサンショウウオ、ゲンゴロウやトンボなどの水生昆虫の生息地がどんどん失われてきた。

山裾と平野部が交わる場所は雨水が集まる「水潤む大地」でもある。水あれば多くの生き物たちが生活している。人間には役に役立たぬ場所である。だから、埋め立てられたり、水が抜かれたりして、どんどん消滅しているのである。

ちょっとした場所なのだけれども、多くの生物が生活する重要な場所でもある。こうした場所には是非目を向けて頂きたい。もっとも身近な、そして、多くの生物の生活を観察できる貴重な場所でもある。環境学習（総合学習）で大いに活用できる場所でもある。最近はやりの「自然の再現」や「ビオトープ作り」の情報源にもなるし、その場所そのものを利用することもできる。

多くの地から急速に失われている「小さな湿地」「小さな沼地」「小さな水たまり」に注目し、残せるものは極力残して頂きたいものだ。

……よろしく お願い致します。

（八雲町在住）

北 海 各地の



林道脇の水たまりは、エゾサンショウウオやエゾアカガエル、ニホンアマガエルの産卵場であり、ゲンゴロウやトンボなどの水生昆虫の棲みかでもある。林道脇のこうした水たまりが水抜きされ埋められ、失われている。



春先の水たまりで、エゾサンショウウオが産卵していた。

「北見バイパス」計画予定地は、天然度が高い身近な里山

事務局長 表 誠司

(「北見の自然風土を考える」市民連絡会)

北見盆地の南側には、天然林の丘陵と湧水の沢が連なり、急斜面となって、常呂川河畔林エリアへと繋がっています。この一帯には、在来種の動植物がひとそろい、ひっそりと生息し、かろうじて生態系の円環を保持しています。

川沿いの崖淵のドロヤナギの高木には、昨秋、オジロワシの営巣が確認され、内陸部がかつ市街地近郊（北見駅より約2km）では、非常に珍しい事例とのこと。残念ながら、何の理由か、去年は子育てに失敗したようです。しかし、今年もつがい居残ったオジロワシが営巣し、関係各位は1km以内に接近しないとの紳士協定を結んでいるとのこと。

北見最大級のミズナラは、胸高周囲約5.5m、樹齢は約五百歳（以上）と推定されます。また周囲3m以上のミズナラ等の巨樹巨木が多数存在します。

湧水の沢の各所では、ニホンザリガニが生息しています。

平成13年5月縦覧の環境影響調査書では、以上の顕著な動植物の記載が欠落しており事後アセスということで、平成15年9月以降の調査も含めて、網走開建は、その不備を繕っている最中です。

この一帯には、旧石器時代後期より縄文時代中期にかけての遺跡が連続して存在しますが、上記アセスには埋蔵物文化財については、まったく触れられていません。

以上のような特殊な事例にもまして、北見市民が長年にわたって炊事遠足、花見、散策等々で身近な自然風土と接し続けてきた貴重な場所です。子どもたちにとっては、昆虫採集・川釣り・土器石器ひろい等々、狩猟採取の場であり、放課後の天然学校として、北見に最後に残された里山エリアです。

「北見バイパス」工事計画の不可思議とその経緯

はてさて、まさにこの丘陵地帯の急斜面に約10.3kmにわたって、トンネル5本と橋梁8カ所を設けて、高規格道路を通そうというのが、この工事計画です。北海道横断道路の一部であるとのこと。予算は約400億円（1mあたり約400万円）、現在バイパスとしての先行着工をまくろんで、網走開建と北見市は用地買収に取り掛かっています。

昨年9月より、当市民連絡会は里山エリアの完全回避を求めて、ルート変更を強く働きかけてきましたが、網走開建は、調整を全く拒否し続けています。「ルートは1mmも動かせない。」と明言した担当官吏が存在するのも事実です。

今年2月、署名が5,000筆を越えた段階で北海道開発局（札幌）と国土交通省（東京）を訪れ、担当官に以下の理由と実情を説明し、ルートの完全変更・完全回避を要求しました。①「大きな自然破壊がおこる」沢地ほど天然度が高く、トンネルと橋梁であるから自然保全であると宣伝する網走開建の論理は、まやかしである。②「市民合意を得ていない」昨年8月の北見市議会に報告されるまで、ルート決定の経緯は、一部関係者以外には知らされていない。③「環境アセスに大きな不備欠落がある」、④「市街地や商店街がますます衰退する」、⑤「費用対便益が全国最下位の本体高速道路以下のバイパスを、なぜ先行着工しようとするのか」足寄-北見間でさえ、1mあたり約160万円。北見バイパスは1mあたり約400万円。

この間、網走開建主催・人選による「北見道路整備における環境保全を考える」懇談会では、ルートの検討を一切排除し、一般市民の参加を拒絶し続けています。

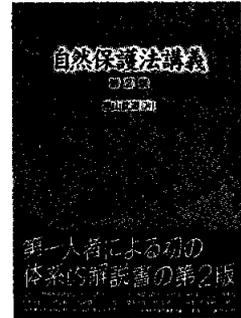
当市民連絡会は、本年5月22日に、「本当の専門家（学識者）の声を聞こう。市民として正当な判断を可能とするために。」と題し、第3公開市民会議を開催しました。北海道自然保護協会副会長の畠山武道氏をお招きし、「道路建設と事業評価・住民参加」をテーマに講演していただきました。また十勝自然保護協会より「トンネルによる水脈被害の報告」がありました。70名強の参加者から様々な反応や議論があり、ねばりづよい運動展開の継続を確認しました。現在、署名は10,000筆目前であり、第二段階の工夫が必要となっています。北見・網走圏では初の取り組みのため、試行錯誤をしながらの活動ですが、様々な応援・助言を頂ければ幸いです。 ※追伸 6月より商工会議所や建設業協会などでつくる団体が、早期着工を求め、署名集めを行っている。

(北見市在住)

寄贈図書紹介 (寄贈順)

「自然保護法講義」 第2版 島山 武道 著 4,700円

北海道大学図書刊行会



第11回夏休み自然観察記録コンクールのご案内

北海道自然保護協会では、毎年「夏休み自然観察記録コンクール」を北海道新聞社、北海道新聞野生生物基金との共催により、北海道教育委員会の後援を得て実施しています。応募方法は下記のとおりです。

- 応募テーマ 身の回りの自然をよく見て、作文や絵に詳しくかいてみよう。
- 応募資格 道内在住の小学生
- 応募規定 作文用紙は自由な規格。低学年は絵日記ふうなまとめ方でも良い。絵は画材、用紙、大きさ自由
- 応募票 (題、住所、氏名、学校名、学年、電話番号) を付ける。
- 応募先 ☎060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル
(社)北海道自然保護協会 ☎011-251-5465
- 応募期間 2004年8月6日から9月15日(水) 必着(郵送・持参)
- 主催 (社)北海道自然保護協会、北海道新聞社、(財)北海道新聞野生生物基金

新 会 員 紹 介

2004. 2. 19~2004. 6 まで

【A会員】 萩原 正朗、武 良比古、山市 喜雅、
豊澤 勝弘、本間 朋子、斉藤 建己、
大谷 光良、中野 孝雄、田口 貴朗、
谷川 喜章、谷川里枝子、田代 雅俊、
藤田 博義、金石 稔、小原 勝利、
坂本 文夫、伊藤 秀平、佐藤 勝、
樋原美智代

【B会員】 大谷久仁子

【団 体】 北見の自然風土を考える “市民連絡会”

活動日誌

2004年2月

- 3日 三役会
- 17日 自然保護学校(1)
- 24日 自然保護学校(2)
- 28日 自然保護講演会「台風10号と平取ダム」
出版記念会「市民が止めた!千歳川放水路計画」
- 29日 高山植物盗掘ネットワーク集会

2004年3月

- 2日 自然保護学校(3)
- 9日 自然保護学校(4)
- 15日 ユーラスエナジー社回答書交渉
- 16日 自然保護学校(5)
- 27日 第4回理事会

2004年4月

- 7日 臨時常務会
- 12日 常務理事会
- 20日 第8回拡大常務理事会

2004年5月

- 8日 自然保護連合代表者会議
- 15日 第5回理事会
2004年通常総会

2004年6月

- 3日 札幌北中学校来所(野外学習)
- 11日 日本道路公団北海道支社担当者来所
- 16日 拡大常務理事会

要望書など

■2004年2月17日

開発道路として整備中の道道17路線を、制度の原点に立ち返って検証し、建設中止の決断を求める要望書

■2004年2月27日

「宗谷岬ウインドファーム」建設に関する要望書

寄付金

ありがとうございます。

日本興亜おもいやり倶楽部	100,000
北海道新聞出版局	20,000
市民ネットワーク北海道	10,000
湊 厚子	4,000
嶋田 久夫	40,000
今成 弥生	4,000
原島 和子	6,000
北潟谷 仁	4,000
工藤 父母道	14,000
萱野 茂	5,000
目黒 義重	1,000
岡部 美恵子	10,000
道央市民生協	50,000
三井住友スマイルハートクラブ	50,000
三井住友海上火災	50,000
奥谷 浩一	13,000
井上 豊子	20,000
大木 敏嗣	1,000

* お知らせコーナー *

『2004 北海道・森フォーラム』

日 時 7月24日(森フォーラム 午後1時～5時)・25日(現地見学会)

場 所 大雪クリスタルホール

旭川市神楽3条7丁目

25日は大規模林道一滝雄・厚和線「滝上・白滝区間」

「白滝・丸瀬布区間」現地見学会、朝6時スタート、15時解散

資料代500円、現地見学会参加の方は交通費3,000円要します。

主 催 大雪と石狩の自然を守る会

後 援 大規模林道問題北海道ネットワーク

募 集

会報を、より身近かなものとするために会員の皆さんより、自然と係わるエッセイと地域の自然についての情報を募ります。

原 稿 800字～1,600字

送り先 ☎060-0003

札幌市中央区北3条西11丁目

加森ビル5 6F

北海道自然保護協会 NC担当

お詫びと訂正

総会の事前案内としてお送りしました「議案の概要」の2003年度決算の会費収入は7,336,430円となっていました、これには2004年度会費の「前受け金」が含まれていたため、本号の議案1の2003年度決算の会費収入、5,564,500円が正しい数字です。お詫びして訂正いたします。

協会のホームページ

http://www.jade.dti.ne.jp/~nchokkai/

協会では、会誌やNC(会報)の他に、ホームページでの活動報告・意見募集も行っておりますので、ぜひご覧になってください。会員の皆さんには、協会宛に直接の手紙やホームページ上の意見欄にご意見を寄せていただくことを願っております。

会費納入のお願い

会費納入については日頃ご協力をいただいておりますが、未納の方は至急納入下さいますようお願いいたします。

個人A会員 4,000円

個人B会員 2,000円

(A会員と同一世帯の会員)

学生会員 2,000円

団体会員 1口 15,000円

〈納入口座〉

郵便振替口座 02710-7-4055

北洋銀行大通支店(普通) 0017259

北海道銀行本店(普通) 0101444

札幌銀行本店(普通) 418891

〈口座名〉

社団法人 北海道自然保護協会

※ この紙は再生紙を使用しています。

